

天文教育で使われるウェルビーイングに関連した内容とその特徴

○富田 晃彦¹ (1.和歌山大学)

天文教育での研究議論でウェルビーイングに関連した議論が行われることがある。一方、日本の学校教育政策においてウェルビーイングは重要な視点の一つと、近年、位置付けられてきている。では、天文教育と学校教育政策とで、ウェルビーイングというキーワードを使った時、視点は違うのだろうか。天文教育に関する最近の文献、研究発表、ウェブサイトレビューすることで、これを探った。天文教育での研究議論でウェルビーイングに関係したものを拾っていくと、幸福、共有、喜び、平和、社会発展、癒し、夢、畏敬の念というキーワードが見られることがわかった。日本の学校教育政策におけるウェルビーイングでは個人の幸福と個人と社会との関係性の両方に重心があり、天文教育分野で語られるウェルビーイングも、それと重なる部分が多い。同時に天文教育では「個人と宇宙の関係性」も視野に入れているという特徴があることが、あらためてわかった。これは特別の教科道德の視点D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」の中の特に「畏敬の念」や「崇高なものと自己の在り方」と親和性が高い。また、天文教育分野で語られるウェルビーイング全体は、道德の視点D全体とよく整合することも見えてきた。